



ブラムシ類



コナジラミ類



ミナミキイロアザミウマ



アドマイヤー®
①粒剤

幅広い適用作物と優れた残効性。
定植時の植穴処理。
少ない薬量で長～い効き目!!

- 浸透移行性に優れ、長期間主要害虫を防除します。
- 防除回数を減らせるので省力化が図れます。
- ウイルス病を予防します。



■適用害虫および使用方法

(2008年12月現在の登録)

作物名 ()は 適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	イミダクロプリ ドを含む農薬の 総使用回数*	作物名 ()は 適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	イミダクロプリ ドを含む農薬の 総使用回数*						
稲	ツマヨコバイ ウンカ類	3kg/10a	収穫80日 前まで	2回	散 布	3回 (稲もみへの処理は 1回、育苗箱への処理 および側条施用は合計 1回、本田での散布は2 回)	ねぎ ぎ わ け さ つ き は く さい	ネギアザミウマ	4kg/10a	定植時	1回	植溝土壌混和	3回 (定植時の土壌混和 は1回、散布は2回)						
かんきつ 〔苗木〕	ミカンハモグリガ	20g/樹 (6kg/10a)	育苗期	1回	株元散布	—	キャベツ	0.5g/株	3kg~6kg /10a	は種時		植穴土壌混和	3回 (育苗トレイへの灌 注および定植時の土壌 混和は合計1回、散布は 2回)						
れんこん	クワイクビアブラムシ イネネクイハムシ	3kg/10a	植付時		植溝土壌混和	3回 (植付時の土壌混和 は1回、植付後は2回)	だいこん	アブラムシ類				育苗期後半	株元散布	植穴土壌混和	3回 (は播時の土壌混和 は1回、播後は2回)				
ばれいしょ	アブラムシ類	4kg/10a			作条土壌混和	3回 (植付時の土壌混和 は1回、散布は2回)	非結球あぶら な科葉菜類							アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	定植時	植穴土壌混和	2回 (は播時の土壌混和 は1回)		
かんしょ	コガネムシ類	3kg/10a	植溝土壌混和		1回	なばな類	0.5g/株						株元散布			植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 および株元散布は合計 1回、散布は1回)		
さといも	豆類 (種実)		は種時		植穴土壌混和	3回 (定植時およびは種 時の土壌混和は合計1 回、散布は2回)										レタス	1回	植穴土壌混和	3回 (育苗期の株元散布 は1回、散布は2回)
さやいんげん		1~2g/株	定植時		植溝土壌混和	3回 (定植時およびは種 時の土壌混和は合計1 回、散布は2回)							いちご			2回 (定植時の土壌混和 および株元散布は合計 1回、散布は1回)			
豆等 (未成熟、但 し、さやいんげ んの未成熟そ らめを除く)	アブラムシ類	3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	—							パセリ			3kg~6kg /10a	培土時 (基礎伸長期)	株元土壌混和	1回
未成熟そらめ		2g/植穴	定植時		植穴土壌混和	3回 (定植時およびは種 時の土壌混和は合計1 回)							こんやく			6kg/10a	生育期 但し収穫 21日前まで	茎葉散布	3回 (植付時の土壌混和 は1回、植付後は2回)
		3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	—							さといも 〔華柄〕			4kg/10a	植付時	植溝土壌混和	3回 (植付時の土壌混和 は1回、散布は2回)
		1g/株	育苗期後半		株元散布	4回 (育苗期の株元散布 および定植時の土壌混 和は合計1回、散布は3 回)					やまのいも 〔むかこ〕		ユスリカ類			3kg/10a	収穫前日 まで	散 布	2回 (植付時の土壌混和 は1回、散布は1回)
きゅうり	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時	株元土壌混和	4回 (定植時の土壌混和 は1回、散布は3回)	やまのいも 〔むかこ〕			コガネムシ類	3kg/10a	生育期		5回			散 布	株元散布		
	コナジラミ類	2g/株		植穴土壌混和	4回 (育苗期の株元散布 および定植時の土壌混 和は合計1回、散布は3 回)	じゅんさい 〔じゅんさい〕		ユスリカ類	3kg/10a	1g/株 (6kg/10a)	定植時	1回	植穴土壌混和			株元散布			
すいか	アブラムシ類	5g/株 (3kg/10a)		育苗期後半	植穴土壌混和	4回 (定植時の土壌混和 は1回、散布は3回)		たばこ	アブラムシ類	2g/株 (6kg/10a)	生育期	5回	散 布	株元散布					
	ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株 (3kg/10a)			植溝土壌混和	3回 (育苗期の株元散布 および定植時の土壌混 和は合計1回、散布は2 回)	きく	アブラムシ類	1g/株 (3kg/10a)	定植時					1回	植穴土壌混和	株元散布		
メロン	アブラムシ類	1g/株		定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)	ベチュニア	アブラムシ類	2g/株 (6kg/10a)		5回	5回	株元土壌混和	株元散布					
	ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株			植溝土壌混和	1回	元きく、垂れ物 〔きく、ばら、ベ チュニア、レザ ファンを除く〕	アブラムシ類	1g/株 (3kg/10a)	5回					5回	株元土壌混和	株元散布		
	コナジラミ類	2g/株		定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)	レザーファン	アブラムシ類	2g/株 (6kg/10a)		5回	5回	株元土壌混和	株元散布					
かぼちゃ	アブラムシ類	1~2g/株			定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)	ポインセチア	コナジラミ類	1g/株 (3kg/10a)					5回	5回	株元土壌混和	株元散布	
にがうり	アブラムシ類	1g/株		定植時		植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)	ばら	イバラヒゲナガアブラムシ アブラムシ類	2g/株 (6kg/10a)	5回	5回	株元土壌混和	株元散布					
まくわうり	アブラムシ類	1~2g/株			定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)								5回	5回	株元土壌混和	株元散布	
トマト	コナジラミ類	0.5~1g/株	定植時	植穴土壌混和		2回 (定植時の土壌混和 は1回)				5回	5回	株元土壌混和	株元散布						
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株		定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)								5回	5回	株元土壌混和	株元散布		
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)				5回	5回	株元土壌混和	株元散布						
とうがらし類	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株		定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)								5回	5回	株元土壌混和	株元散布		
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)				5回	5回	株元土壌混和	株元散布						
なす	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株		定植時	植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)								5回	5回	株元土壌混和	株元散布		
	アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴土壌混和	2回 (定植時の土壌混和 は1回)				5回	5回	株元土壌混和	株元散布						
にら	ネギアザミウマ	4kg/10a		収穫30日 前まで	株元散布	2回 (定植時の土壌混和 は1回、株元散布は1回)													

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

1粒剤の上手な使い方

■植穴処理の場合



■育苗期後半処理(ポット処理の場合)



■注意事項

- 本剤をだいこんに使用する場合は、間引き菜、またはつまみ菜として食用には供さないで下さい。
- きくのミナミキイロアザミウマに使用する場合は、生育期後半に使用すると効果が不十分になる場合がありますので生育期前半に使用して下さい。
- 植穴処理で栽培本数が多量の場合は、10アール当たり3kgを目安に適用の範囲内で1株当たりの使用量を調整することが望ましいです。
- こんやくに使用する場合は、育苗から3m以上離して下さい。
- トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、メロンの育苗期後半に使用する場合は、必ず、直径9cm以上のポットで育苗した苗に使用して下さい。
- かんきつに使用する場合は、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後灌水をして下さい。効果発現が遅れることがありますので、対象害虫発生前に使用して下さい。

- 稲に使用する場合は、湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、湛水、かけ流しはしないで下さい。
- 蜜に対して長期毒性がありますので、絶対に養蚕にかけられないようにして下さい。
- ミツバチに対して影響がありますので、ミツバチの集巣およびその周辺にからないように注意して下さい。本剤の処理後、ミツバチの訪花活動に影響を及ぼす恐れがありますので注意して下さい。
- 養蜂が行なわれている地区では周辺への飛散に注意するなど、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量・使用時期・使用方法を守って下さい。本剤を適用作物群に属する作物 またはその新品種に使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましいです。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。